



将来を担う若者の育成と 国境を越えた相互理解を促す JAL スカラシッププログラム



修了式で笑顔を見せる2016年の参加学生。

毎年、JALと公益財団法人JAL財団が連携して行ってきたこのプログラムは、昨年で47回目を迎えました。今回は2016年の活動と、近年、力を入れている世界で活躍する卒業生の連携づくりについてレポートします。

アジアの未来を考え 学生たちが交流を重ねる

「JAL スカラシッププログラム」は、アジア・オセアニア地域の大学生を日本へ招待し、さまざまな研修や日本の大学生との交流を通じて、国境を超えた相互理解を促し、国際的な視野と行動力をもった若者を育成することを目的として、1975年にJALにより開始されました。1990年からJAL財団（当時は日航財団）がその運営を引き継ぎ、JALと連携しながら活動の充実を図りつつ継続。現在までに、1564名の海外学生、420名の日本人学生がこのプログラムに参加しています。

47回目となった2016年は、初めてミャンマーから参加した2名を含む26名の海外学生を招いて実施。「アジアとニッポンの未来予想図」を研究テーマに掲げ、東京とその近郊ならびに石川県（金沢・白山・奥能登）にて、さまざまな研修やフィールドワークを行いました。参加した学生たちは茶道や俳句創作などの日本の伝統文化や、能登の「あばれ祭」といった伝統行事を体験したほか、市民交流などを通して、日本への理解をより深めました。

会では、卒業生の皆さんにプログラム参加当時の思い出や、その経験が人生にどのような影響を及ぼしたかなどを熱く語っていただき、参加学生からは、「スカラシップの経験を踏まえてさまざまな分野で活躍されている先輩たちと接して、非常に励みになった」「30年の歳月が流れても絆を大切にしている先輩たちのように、我々もこのプログラムを通して築いた友情を末永く大切にしたい」といった声が多く寄せられました。この世代を超えた交流を通して、1986年の卒業生にとって30年前の自分たちを振り返る、2016年の参加学生にとっては30年後の自分たちの姿を想像する、貴重な機会となりました。



参加学生たちは、和装に着替えて茶道を体験した。

表されました。続いて開催されたフェアウェルパーティーでは、再会を約束し合いながら涙ながらに別れを惜しむ海外学生、日本人学生の姿が見られました。

世代・国を超えた繋がりを 築く同窓会を開催

これまでにこのプログラムから巣立った卒業生は約2000名。そのなかには、閣僚、外交官といった国との懸け橋となる人材や、大学教授、ジャーナリストなどさまざまな分野で大きな影響力をもつ人材が数多く含まれています。そこでそのような皆さんに、あらためて日本への関心を深めてもらうこと、また、卒業生同士の世代を超えた絆を築いてもらうことを目的として、JAL財団は海外各地において同窓会（リユニオン）を開催しています。当初、卒業生が100名を超える国や地域で行っていましたが、次第に開催場所を広げ、参加者も増えて、年次を超えた交流が深まりつつあります。



30年前の参加者と2016年の参加学生が交流するという貴重な機会も実現。



2016年11月に行われた世代を超えた同窓会では、浅草などの観光地も訪問。

Information

2017年 JAL スカラシッププログラム 参加日本人大学生・大学院生を募集します

2017年のプログラムに参加して、アジア・オセアニア地域の学生たちと交流していただく日本の大学生・大学院生の皆さんを募集いたします。

- 【日程】①2017年6月26日（月）～30日（金）
②2017年7月10日（月）～17日（月・祝）

※①または②の日程で東京近郊で行われるプログラムに参加していただけます。両方の日程にご参加いただける方を歓迎します。

【募集人数】十数名（予定）

【応募締切】2017年3月10日（金）17時まで

※応募が多数の場合は、書類・面接等により選考させていただきます。



JALスカラシッププログラムの活動詳細や、2017年の参加応募要項などについては下記ウェブサイトをご覧ください。

www.jal-foundation.or.jp/001jalsc/topics.html



私たちが取り組むCSR活動に関する詳細は、こちらでもご覧いただけます。 www.jal.com/ja/csr/